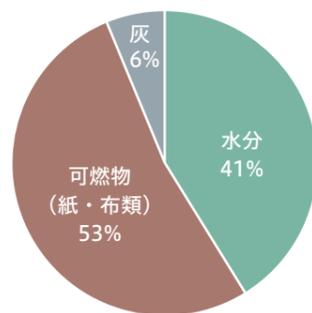


図2：ごみの組成分析



資料：伊達地方衛生処理組合

他にも、肉や魚が入ったプラスチック保存容器に汚れが付いたまま出されているケースが多くあります。少しでも汚れていると、再資源化できず、可燃ごみと なってしまいます。



町内各地のごみを回収し、伊達地方衛生処理組合へ運ぶ佐藤さん

町内各地のごみを回収している、羽山産業株式会社の佐藤繁雄さんに、日ごろ回収時に感じていることや今すぐできるごみ減量化のコツを聞きました。

冬から春へ季節が移り変わり、冬物衣類を可燃ごみの日に捨てる人が増えてきました。衣類は資源ごみと

季節が変わり、冬物衣類や草のごみが増加 ごみの量を減らすための一工夫が大切



羽山産業株式会社
代表取締役社長
しげお 佐藤 繁雄さん

してリサイクルできますので、ごみの量を減らすためにも、資源回収に出しましょう。また、この時期、草や枝葉のごみも増えていきます。ごみ袋へ草を入れる際に、根本に付いた余分な土を払って落とすだけで、ごみの重量がぐんと減ります。

ごみの量が増える原因となるだけでなく、伊達地方衛生処理組合で一つ一つ袋を開けて、再分別する作業も増えてしまうので、各家庭で責任をもつて容器をしっかり洗い、分別するようにご協力をお願いします。

また、ごみ収集車で町内を回っていると、県道桑折国見線のイコーゼ北側駐車場付近や田畑の影など、ごみステーションではない場所に勝手にごみが捨てられている光景を目にします。決められた場所以外に、ごみを捨てると、不法投棄となります。こうした行為は犯罪として、「5年以下の懲役もしくは1千万円以下の罰金」に処せられます。ごみの出し方を見直し、決められた日時・場所に正しく出しましょう。

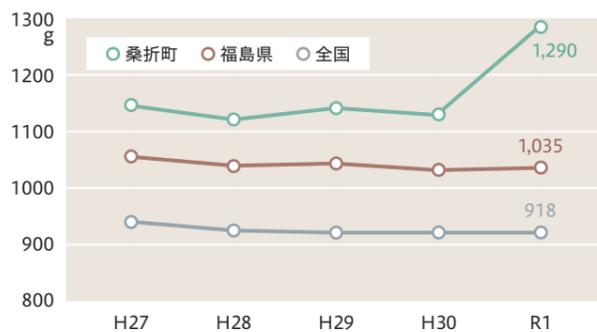
身近なところで一工夫 ごみを減らそう

桑折町で出るごみの排出量は、1日あたり1人1、423g。新型コロナウイルス感染症拡大防止による長引く自粛生活と2月に起きた地震災害の影響で、2年前から約300g急増し、全国と比較しても、高い水準で推移しています。ごみの現状やすぐに実践できるエコ活動を知り、普段の生活を見直しましょう。



「面倒だから…」とつい分別せずに捨てていませんか？

図1：1人あたりのごみの排出量



資料：一般廃棄物処理実態調査（環境省）

ごみの排出量が増加傾向に

現在、桑折町でごみの排出量が急激に増えていることは知っていますか。コロナ禍により在宅時間が増えたことで、片付けごみやデリパリー・テイクアウトのプラスチック保存容器などの家庭ごみが増加。また、2月に発生した福島県沖地震により、壊れた電化製品や家具などの災害ごみも増えています。令和元年の1年間に集まった粗大ごみは167トでしたが、翌2年は870トと大幅に

増加しています。そもそも福島県は、都道府県別で比較すると、1人あたりのごみ排出量が1、035gと、全国でワースト2位の順位です（環境省「一般廃棄物処理実態調査」）。桑折町は、さらにその県平均も上回り、国内で見ても、ごみの排出量が多い地域のひとつとなっています（図1）。

一工夫でごみを減量

それでは、桑折町は、特にどの種類のごみが多いのでしょうか。伊達地方衛生処理組合のごみ組成分析によると、可燃ごみの3成分のうち、「水分」が約4割占めていることが分かります（図2）。これは、ほとんどが生ごみに含まれる水分量です。生ごみを捨てる際に、ぎゅっと絞って水を切ったり、三角コーナーで水切りネットを活用し、生ごみを完全に乾かしてから捨てたりすることで、大幅にごみの量を減らすことができます。また、ごみの種類組成を見ると、「紙・布類」が最も多くなっています。古紙や雑誌は、可燃ごみとして捨てず、土曜日の古紙・紙の回収日や資源回収に出すことで、ごみの減量化につながります。

check ごみの分別に悩む時は――

ごみの分別が分からない時は、生活環境課で配布している「家庭ごみの分け方・出し方ハンドブック」を確認しましょう。その他、町ホームページにある「ごみ検索機能」も便利です。「テレビ」や「棚」などとキーワー

ドを入力すると、そのごみの区分と収集に出す際の条件を確認することができます。また、右記の「福島県環境アプリ」では、ごみの分別のほか、町内の地区ごとに、その日回収するごみの種類をお知らせしています。

